

# 北信教育事務所だより



～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり・授業づくり～

令和5年12月19日第6号



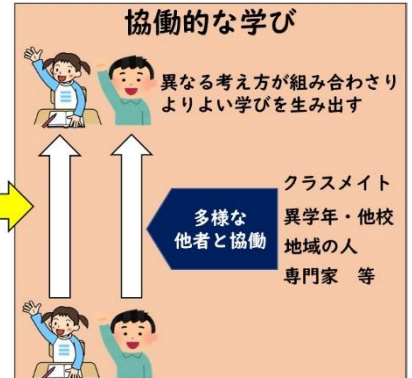
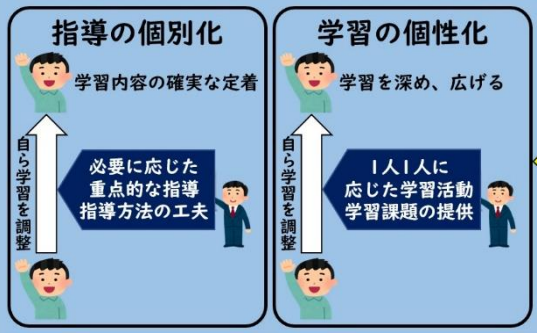
探究的な学びを支えるために、大切にしたいことは何でしょうか。

## 令和5年度教育課程研究協議会・授業公開校の実践から②

前号では、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、探究的な学びに必要な「問いや願い」、「問いや願いが連続していく場面」に焦点を当て、3校の実践を紹介しました。

本号では、子どもが、課題を解決していく過程に焦点を当て、探究的な学びを支える①個別最適な学びの視点と②協働的な学びの視点で、授業公開校の具体的な工夫を紹介します。

個別最適な学び（教師視点では「個に応じた指導」）



中野市立中野小学校 増田 幸太郎先生  
6 学年 国語「やまなし」

### 課題を解決していく過程

文学の多様な読み取り方を知り「『やまなし』の魅力は何か」という単一解ではない問題を個々の児童が追究し、話し合うことを通して、自分の考えを広げる。

#### 「個別最適な学び」の視点

##### ●指導の個別化

- ・前時のふり返り等から、追究の過程でつまずきそうな児童をあらかじめ把握し、読み方について支援にあたった。
- ・個々の学習進度や到達度に応じて学習を進められるように、児童一人一人が学習計画を立てた。

##### ●学習の個性化

- ・同作者の別作品を読む、作者の生き方が書かれた解説文を読む、オノマトペの確認に実物を用いる等、児童が多様な方法を選択し、追究に取り組んだ。

#### 「協働的な学び」の視点

- ・児童が自由に動きながら一人一人の多様な考えを共有できるように、自己課題のテーマにこだわらず、個々の追究した魅力を伝えられる場を設定した。

<本号でお伝えする内容>

☆教育課程校の実践より 「個別最適な学び」と「協働的な学び」

☆第3回 日々の授業改善研修より

頁

①～③

④

坂城町立南条小学校 山口 和幸 先生  
6 学年 理科「水よう液の性質」

課題を解決していく過程

身の回りには水溶液がたくさんあり、用途に合わせて使い分けられていることに気づいた児童が、どうすれば生活の中で水溶液を適切に利用していくことができるか、という問いをもち、その解決に向けて、溶けているものを調べたり水溶液の分類の仕方を知ったりする必要があることを見だし、それぞれが考えた方法で水溶液の性質にせまる。

「個別最適な学び」の視点

●指導の個別化

- ・学習計画表を用い、児童が単元を見通して自分のペースを調整しながら学習に取り組んだ。
- ・学習カードへの記述を紙かクラウドのファイルにできるようにしたことで、取組みやすいものを児童が選んで利用した。

●学習の個性化

- ・複数ある課題から自分が調べたいものを選択し、取り組んだ。参考資料は教科書やインターネット、動画などの中から自分で選択して活用し、課題の解決方法を自分で発想して実験を進めた。

「協働的な学び」の視点

- ・互いに実験結果を確認しあったり、一人では不安を感じる児童が相談したりできるよう教室を課題ごとに分け、課題が同じ児童同士が近くで学べるようにした。

長野市立櫻ヶ岡中学校 小林 敏光 先生

2 学年 総合的な学習の時間「社会の中の私は—社会を学び、自分を見つめる—」

課題を解決していく過程

「社会の中の人から学び、社会を学び、自分を見つめる」というテーマをもとに生徒自身が課題を設定し、企業見学や社会体験学習等を通して課題解決につながる情報を集め、整理・分析し、社会の中の人との関わりから自分を見つめ、自らの将来について考えていく。

「個別最適な学び」の視点

●指導の個別化

- ・教師が子どもの課題意識を捉え、個々に声かけすることで、課題が明確になり、必要感をもって学習を進めていった。
- ・自分の計画書に課題解決への見通しをまとめることで、調査方法や進度を調整しながら探究的に学んでいった。

●学習の個性化

- ・一人一人が自分の課題に合わせて、多様な方法で情報を収集し、課題解決につながる情報を整理・分析し、相手意識をもって、まとめたり表現したりできるようにした。

「協働的な学び」の視点

- ・課題の似ている生徒同士で必要な時に情報を共有したり相談したりしながら、調査活動への見通しをもち、進んで取り組んだ。
- ・学校外で調査活動をする時間が確保されていたことで、地域の方や企業の方と直接関わって学び、社会の中の人を通して将来の自分について考えることができた。

### 考えを深める過程

「自分の考えを伝えるときには、どんなことが大切なのか」という問題意識をもち、教材の登場人物の気持ちを自分との関わりで考えたり、友達と対話し多様な考え方に触れたりして、児童が今までの生活を振り返り、気持ちを伝えることについての考えを整理し、深めていく。

#### 「個別最適な学び」の視点

##### ●指導の個別化

- ・個人で考えを整理した後「Aさんに考えを聞きに行ってください」と促し、自分の考えと似ているところ、似ていないところを比べられるようにしたことで、考えを深める児童の姿につながった。

##### ●学習の個性化

- ・自分の考えを整理するために、個人でじっくり考えたり、クラウドに共有された友達の考えを参考にしたり、友達と話したりして考える場を設定したことで、自分で選択し、取り組んだ。

#### 「協働的な学び」の視点

- ・友達の考えを把握し、自分と同じ考えの友達や違う考えの友達と話ができるように、個々の考えをクラウドに提出した後、友達と意見交換できる時間を確保した。

### 課題を解決していく過程

学校生活をよりよいものにするために、児童が見出した課題について、異学年での話し合いを通して解決策を決め、決めたことを実践し、振り返り、次の課題解決に向かう。

#### 「個別最適な学び」の視点

##### ●指導の個別化

- ・学年や、話し合いの時の役割ごとに「学習の到達度を評価する際に使用する評価指標」を作成し、児童と共有することで、児童が活動の見通しをもつことができた。
- ・ICT端末を使って児童が振り返りを選択、記述式等で入力できるようにすることで、題材のねらいに即した振り返りができ、教師の適切な支援につながった。

##### ●学習の個性化

- ・学校生活をよりよいものにするために、自分が考えたい課題を選び、その内容ごとにグループを編成した。
- ・6年生は、それぞれのグループで「進行する」「意見をまとめる」「意見を引き出す」といった係を自分で選択し、取り組んだ。

#### 「協働的な学び」の視点

- ・ICT端末で常に自分たちが出した意見を共有し、内容整理ができるようにした。
- ・一人一人の意見を大切にしたい合意形成ができるように、話し合いの場を設定した。

# 第3回日々の授業改善研修

Let's call it HIBIKEN!

11月20日(月)、今年度3回目の日々の授業改善研修を開催しました。今回は、教科・領域等ごとに小グループに分かれ、前半はこれまでの実践の成果や課題の発表をしていただきました。また、後半は「この時期だからこそ、改めて授業づくりについて考えたい」と初めて参加された先生方も含め、3学期に向けて単元、授業づくりについて考え合いました。



今年度の授業改善研修における「問い」

子どもの「願い」や「問い」からはじまる授業をつくるには、  
どうしたらよいのでしょうか。



「生活・総合的な学習の時間」のグループでは、小1の「あきまつり」の単元の実践をお二人の先生が発表してくださいました。同じ単元を、それぞれの学校の子も達がどんな「願い」をもって追究していったのかや、それを支えた先生方の工夫を、「他の人の単元展開を聞くと、視野が広がるね」「そんな工夫もできるんだ」とつぶやきながら聞いている姿が印象的でした。

今年度は養護教諭・養護助教諭を対象とした「学校保健」の講座を3回開催しました。保健厚生課の指導主事と、それぞれの学校の保健室経営の悩みを話し合ったり、保健の授業の工夫について情報共有したりしていました。「指導主事の先生に直接困っていることを相談でき、とても貴重な機会でした!」との声をいただきました。



## 【研修のまとめより】

- ・この研修を通して「教科書の内容を理解できればいい」と思っていた自分が、「教科書で学んだことをどんなことに利用できるかな」と考えられる自分に変わっていったような気がします。数学を楽しんでいると思ってもらえる授業ができるよう、これからも日々の授業改善に努めていきたいと思います。
- ・第2回でアドバイスをいただき、それを実践してみたところ、種目の特性に迫った良い教材とすることができました。また、今日の研修を通して新たな課題も発見することができました。この日々研で、構想→実践→振り返り→課題改善のサイクルを確実に回すことができたと思います。ありがたい研修の場となっています。
- ・授業づくりに終わりはないので、本日の研修で学んだこと、いただいたアドバイスを今後の授業に取り入れていき、自身の授業をどんどんアップグレードしていきます!
- ・「子ども達の問いを大切にしなければいけない」と改めて思いました。単元を通しての問いや願いを設定して、何のために学ぶのか、学ぶ理由を明確化することを実践していきたいです。
- ・学ぶことの意義や本質について改めて考える機会となりました。なぜこの単元を学ぶのか、なぜこの授業があるのかを私たち教師がしっかり考えて授業をしなければ、生徒の学びにはつながらないと痛感しました。

それぞれの課題や実践を共有したり、これからの授業について考えたりする中で、なぜ子どもの「願い」や「問い」から授業をはじめることが大切なのか、そんな授業にするためにはどうしたらよいのか、その答えに迫り、明日からの授業改善に向けて前向きに取り組もうとする先生方の姿がありました。来年度も「全職員」を対象として研修を開催する予定です。ともに学んでいきましょう!

